- 未来を見る -

愛知県立新川高等学校長　川手文男

新川高校では、生徒の課題解決能力を伸ばすために、また、課題の「発見能力」を身に付けるために、探究的な学習に力を入れています。
その中心になる「総合的な探究の時間」では、さまざまな取り組みを行っていますが、特に１年生は探究活動の基礎を学ぶために、学校周辺の施設と連携したフィールドワークに出かけています。

フィールドワークでは、弥生時代の集落として全国的にも最大規模の「朝日遺跡」と、織田信長をはじめとする戦国時代の武将が活躍した「清洲城」に出かけています。いずれも歴史のロマンを感じる素敵な施設です。
また、本校の校名にもなっている「新川」は、名前のとおり江戸時代になってから新しくつくられた川です。庄内川のバイパスとして開削された日本最長の人工河川です。
本校が立地する清須市周辺は、古代から中世、そして近代へつながる歴史の豊かな地域です。「ドキドキ」「ワクワク」がいっぱいです。

今年度からフィールドワークの行き先に「清須市役所」が加わりました。行政サービスをはじめ、観光面に注目した地域振興や防災への取り組みなど、地域の皆さんの暮らしに携わる仕事を学ぶことができ、本校で実施しているキャリア教育につながる探究活動になりました。
市役所では新川高校ＯＢの皆さんが何名も勤務しておられ、生徒たちを歓迎してくださいました。毎年、同窓会からは本校に部活動の用具を寄付していただくなど、多くの支援をいただき感謝に堪えないところですが、同窓生の方々の活躍ぶりを目の当たりにすることができ、先輩たちの頼もしさを感じるとともに、新川高校の歴史にも思いをはせることができました。

探究活動を充実するにあたって、新川高校は、大変立地に恵まれています。フィールドワークをきっかけにして、新川高生たちがさまざまなことに「ドキドキ」「ワクワク」して、興味・関心を広げてくれるとよいと思います。

「歴史を学ぶこと」は、「未来を見通す力を養うこと」です。
自ら課題解決ができる力を身に付けることで、「未来を夢見る力」を育てたい。
新川高校は、そう願っています。

これからも地域の人々との連携を深めながら、地域の期待に応えられる学校づくりを進めてまいります。そして、「ドキドキ」「ワクワク」の毎日を大切にして、未来社会を託すことのできる生徒たちを育てていきます。